

令和5年度幼稚園学校評価（塩冶幼稚園）

分野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価	
			達成及び取組状況	評価	評価	評価結果を踏まえた今後の取り組み
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	○教育目標の達成を目指して学級経営案を立案し、月計画や週計画をもとに、子どもの育ちを捉えた保育実践に努めている。 ○保護者、教職員アンケートでは、95%以上がA、B評価をしていることから、各担任が園の教育目標や特色を生かした学級経営に努めていると評価している。	4	4	○教育目標に基づき、日々の保育実践が幼児の育ちにつながるよう、幼児を語る会を通して共通理解を図り、保育の充実を図っていく。 ○月の指導計画、週案に基づいて、教材研究や環境の構成など見直しをもった保育の展開に努め、反省、評価、改善を加えていく。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達から課題を捉えて保育を行っているか。	○幼児一人一人の興味や関心、情緒の安定、生活習慣、発達の姿をとらえ、意欲や主体性を引き出す保育に努めた。 ○個人懇談、年中児発達相談事業、あゆみを通して、保護者に成長の姿や願いを伝えると共に、課題や願いを共有した。	4	4	○一人一人の興味関心や成長の過程、発達の課題を捉え、望ましい発達を促すための具体的な支援をしていく。 ○保護者との懇談、年中児発達相談事業、あゆみを通して、子どもの成長の姿や課題、願いを共有していく。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	○特別な支援を必要とする幼児や外国籍の園児の実態把握に努め、補助教諭やヘルパーと連携しながら共通理解を図り、必要な支援を行った。 ○家庭との連携や巡回相談、就学先との連携を通して、幼児の特性の理解やよりよい支援に努めた。	4	4	○特別な支援を必要とする幼児の特性や発達に応じた具体的な支援方法を洗い出し、安心して過ごせる環境づくりをする。 ○担任を中心に、補助教諭やヘルパーそれぞれが自分の役割を果たせるよう、連携を図り共通理解しながら指導にあたる。 ○保護者の思いや願いを受け止め、巡回指導や関係機関との情報共有を行い、適切な指導につなげる。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	○人権同和教育を園生活の基盤に据えて、幼児の人権意識の芽生えを培うと共に、職員自身が人権感覚を磨くように努めた。 ○教職員のA、B評価が100%であることから、幼児一人一人の人権を大切にしたい保育を心がけ、実践していることが伺える。	4	4	○幼児が集団生活に必要な習慣や態度が身につけ、互いに認め合い、受け入れあえるよう、温かい集団作りをしていく。 ○互いに尊重し、協力し合える教職員集団となるよう、自らの言動を意識し、人権感覚を磨く努力と共に、園内外の研修に積極的に出かけ、職員間で報告、伝達をしていく。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	○幼児にとって成長の機会となるよう、発達に応じた内容、取り組みなど、幼児の体験が豊かになるよう工夫し、保護者に情報発信した。 ○コロナ禍が明け、全園児が参加型の行事や活動を展開し、保護者、教職員共にA、B評価が100%であること、行事後の感想等により、理解や評価を得ていることが伺える。	4	4	○新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、幼児の発達を促す活動となるよう、内容、方法を検討、工夫する。今年度の取組に反省、改善を加え、次年度に活かす努力をする。 ○行事のねらいや意義、幼児の取組の過程を保護者にたより掲載や写真提示、ボード等、具体的に伝え、理解を得る。
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	○塩冶小学校区校長、園(所)長会、保幼小連絡会、保幼小交流の日などを通じて、園児の実態、様子について情報交換したり、保幼小の理解を推進する場となっている。 ○保護者アンケートでは、A、B評価は75%にとどまり、24%近くがC、E評価であることから、よりよい連携や保護者への情報発信に努める必要がある。	3	3	○小学校との交流や意見交換、情報提供を行い、幼児・児童の実態や指導・連携のあり方について、理解を深め、滑らかな接続に努める。 ○保護者に連携の様子を情報発信し、理解を求めていく。
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域（未就園児等）との協力関係はできているか。	○地域の行事や祭りに参加、職場体験、医学部学生の保育体験受け入れ等、地域との連携を図った。保護者との懇談、たより等、関係作りにも努めたが、C、D評価が10%以上いることから、十分とはいえない。 ○未就園児教室も毎月実施し、音楽、運動、表現、製作など内容を工夫しながら楽しい教室となるようにした。	3	4	○地域に開かれた幼稚園として、積極的に地域の行事への参加や学生の受け入れを行い、幼稚園の存在を知ってもらう機会とする。 ○保護者が子育ての喜びと共に悩みや不安を気軽に相談できるよう信頼関係作りにも努めていく。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	○日頃の保育実践から、幼児の発達や教師の援助、環境構成や教材研究等について語り合い、研修、研鑽を深めたが、教職員アンケートでは、Dのされていないが5%あったため、共通理解を進めていく必要がある。 ○積極的に県や市、外部団体の研修会、研究会に参加し、職員一人一人が自己研鑽に努めた。	3	4	○教育の質の向上に向けて、教職員の専門性を高め、保育内容の改善・工夫について実践を重ねていく。 ○一人一人が研修会に積極的に出かけ、自己研鑽に努めるとともに、事後の研修報告をし、職員への伝達をする。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	○計画的に園務が遂行できるように園全体への周知を心がけ、互いに支え合い協力体制を組みながら、協働して園務を遂行した。教職員もA、B評価が100%であることが伺える。	4	4	○職員が自分の役割に自覚と責任をもち、互いに協力して園務にあたっていけるよう、共通理解を図っていく。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	○安全指導年間計画に沿って、避難訓練(火災、地震、引き渡し)、消防署の指導を受け、避難行動が身につくようにした。また、親子対象の防犯教室を行い、不審者対応の実践を学んだ。 ○毎月、各学級での保健指導を行い、保健衛生、予防の仕方を具体的に園児に知らせ、身につくようにしている。	4	4	○様々な状況や場面を想定した避難訓練、不審者対応を計画的に実施し、園児の安全確保、保護者への引き渡し等が速やかにできるよう職員の対応力を身につけていく。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	○毎月、職員で施設・設備の安全点検を行い、不具合が生じた場合は、早急な対応、修繕に努めている。毎月、保護者による草取りボランティア、校務員や職員による草刈りなど、環境整備を行っているが、園庭が広く不十分な面もある。	3	3	○毎月の安全の日には、園舎や遊具の安全点検を実施し、速やかに修繕を行う。施設の老朽化について必要な要望を継続していく。 ○保護者や校務員、職員の協力を得て、園庭の環境整備を定期的に行っていく。

※評価基準 4：十分達成している 3：概ね達成している 2：改善を要する部分がある 1：大いに改善を要する